

少し熟れて黒ずんできた▶
ボタ山トマト（黒トマト）



桂川人

けいせんのかひと

ー 今回の桂川人 ー 【地域を元気づける起爆剤】

野上 早規さん（三五） 〓 桂川町土居一区



▲ “同じやるなら楽しく”と、いつもにこやかに活動に取り組む野上さん。

今 紹介する桂川人は、町内で自動車解体業を営む傍ら、(社)飯塚青年会議所に所属し、飯塚・嘉麻・桂川地域の活性化と、町おこしのための様々な活動に取り組む、野上早規さんです。

(社)飯塚青年会議所について

(社)飯塚青年会議所は、時代の担い手たる責任感を持った20歳から40歳までの青年が集まり、地域と共に明るい豊かな社会づくりを目指した活動を行っています。今年度は「魁けー愛するもののために、今、行動する」をスローガンに掲げ、メンバーは「まちづくり」「ひとづくり」「地域活力」などの各委員会に分かれて様々な事業を行っています。

飯塚青年会議所での野上さん

今年度、野上さんの所属する「まちづくり魁け委員会」は「飯塚・嘉麻・桂川を全国にアピールできる独自の地域ブランドを創れないか」と議論を重ね、その中であつて炭鉱で栄えた地域であることに注目。嘉麻市のボタ山跡地で「ボタ山トマト」と銘打ってまつ黒なボタにちなんだ黒トマトを栽培する事業に着手しました。夏の猛暑のなか、野上さんをはじめ他のメンバーは毎日交替でトマトの管理を行つた結果、秋には味が濃く、美味しいボタ山トマトをたくさん収穫することができました。野上さんは「この黒トマトを誰かが引き継いで、いつの日か新しい黒いダイヤと呼ばれる日が来れば」と優しい笑顔で話されていました。

もう一つの大事業「日本一のおむすびアート」

今年度、野上さん達が取り組んだもう一つの事業が地域でとれた新米夢つくし660kgを使つての「日本一のおむすびアート」です。どうしてこの事業をしよう思つたのか野上さんに尋ねると、食の安全や地産地消、食育といったことが取りざたされ、今一度地元の食について考えたのがきっかけだそうです。

11月16日の「日本一のおむすびアート」当日、野上さんはおむすびを握る担当責任者。「食の安全」「地域のおいしいお米」を訴えた事業だけに、衛生面などに配慮した結果開始から終了までに与えられた時間は3



▲ 6月8日、桂川町からもアンビシャスの子どもや嘉穂総合高校の生徒も参加して行われたボタ山トマト苗植式（嘉麻市上山田にて）



▲ 日本一のおむすびアート完成記念写真（前列右端が野上さん）

今年の野上さんの抱負は？

「私たちの住む地域の底力」を全国にアピールできた昨年に引き続き、今年も、私たちの暮らすこの地域を元気づける起爆剤になれるよう頑張ります。」と笑顔で答える野上さんは、行動力と元気の塊の桂川人でした。